

卒業後の私

卒業後の私

藤本 篤 司

(平成12年度文学部国文学科卒業)

国文学科を平成13年3月に卒業し、11年が経ちました。現在、明豊中学・高等学校、県立宇佐高等学校で書道の非常勤講師を務めています。

この度、大分県公立学校教員採用選考試験で高等学校書道教諭に合格しました。

恩師との出会い

高校生の時に参加した別府大学のオープンキャンパスで書道の荒金大琳教授に出会い、先生になりたいと思い入学しました。夢のきっかけが恩師との出会いだけに、別府大学に入学していなければ私は教員になっていなかったと思います。

走り続けた大学四年間

大学四年間は書道一色でした。荒金教授から「別府大学の書道教室では君はもう教師なのだ。教師になろうとしてもすぐになれるものではない。身も心ももう教師になったつもりで書道教室に入室して学ぶこと。書道教室は教師としての学問の場であることを忘れてはいけない」とよく言われました。

自分の勉強ができる最後の4年間をがむしゃらに走り続けました。常に自分の考えを持ち、気づき、行動することで切り拓いていくことの大切さを学んだ4年間でした。

どうしたら先生のように上手く書けるのか、どこにその秘密があるのかわからないので、先生の書かれる際の墨の付け方から息遣い、呼吸、体の微妙な動きまですべて真似をしました。

充実した教員生活

大学生活のおかげで卒業後は自信を持って非常

勤講師として教壇に立つことが出来ました。書道という教科を通して、生徒に自分自身を表現することの喜び、向き合うことの大切さを育みたいと思いい教育活動を行っています。

また「わかる、伸びる授業」を求め、授業5分前に配布するポイント資料、授業ワークシート、自己評価表を作成し、生徒が主体的に活動できるように工夫改善しています。

部活動では、両校の部員合わせて約40名が在籍し、書道の活動を通して家庭や学校、地域に貢献する活動を行っています。今年度は書の甲子園において宇佐高校の生徒が準大賞を受賞。団体の部では優秀校にも選ばれました。

教員採用選考試験

書道は五年ぶりの試験でした。卒業しても変わらず指導をして下さる別府大学の書道の開かれた環境のおかげで頑張り続けることができました。また生徒とふれあう中での貴重な体験が活きたと思っています。

別府大学の後輩の皆さんへ

大分県教育委員会は大分県が求める教師像として、次の4点をあげています。

- ・専門的知識をもち実践的指導力のある人
- ・使命感にあふれ高い倫理観と豊かな人間性をもつ人
- ・柔軟性と創造力をそなえ、未知の課題に立ち向かう人
- ・学校組織の一員として考え行動する人

上記の点を自分と照らし合わせてみるのが大切だと思います。

別府大学の在学中に教員として活動できるといふ自信を自分達の努力で掴んで下さい。

教員という職業は最高の職業です。生徒との素晴らしい出会いが待っています。是非、志を高く持ち、夢を実現させて下さい。教職を天職にするか、しないかは自分が決めることです!!

卒業後の私

奥本裕樹

(平成20年度文学部人間関係学科卒業)

大学院進学

私が大学院進学を決めたのは、ボランティアがきっかけでした。一つは子育てネットワーク、もう一つは公民館での学童保育活動のボランティアです。

ボランティアで子どもたちとふれあう中で、「もっと子どもたちと関わりたい、成長の支えになりたい」と感じ、小学校の先生になりたいと思うようになりました。

そして、ゼミの先生の勧めもあり、小学校の専修免許も取れて修士の学位も取れる、鳴門教育大学の大学院に進学することを決意しました。

大学院での

「講義の場での学び」と「様々な人との出会い」

私が進学したのは三年間で修了するという長期履修コースで、普通の大学院とは少し違うものです。

一年目は大学生と一緒に、免許取得に必要な単位を取るための講義を受講。

二年目は、大学院の授業を受け、修了するのに必要な単位を取得と、取得する免許の校種にて教育実習。

三年目は、主に修士論文執筆。

こういった流れで三年間が進んでいきました。

この三年間の中で、様々なことを学びました。講義では小学校の教員になるために必要な知識、技能を習得していきました。いくつか例を挙げると、学級経営を行う上での知識や学校組織についての知識、教育関係の法律などを学びました。学習指導案の書き方についてはいろいろな授業で何度も学び、書き方、授業の展開の仕方に関しては、かなり力をつけることができました。

講義などで学んだ知識も重要なものですが、大学院でのいろいろな人との出会いも私にとっては大きなものでした。教員養成の大学院には、様々な人たちが進学してきます。私と同じように学生上がりの人もいれば、社会人を経験している人、休職して勉強をしに来ている現場の教員の人もいます。そして、その誰もが教育に対して自分の考えを持っていて、私が持っていない知識、スキルを持っています。

いろいろな人と話すことで、それらを吸収することができたと感じ、それが自分の成長にもつながったと感じています。

周りにいる人間すべてが同じ目標を目指す同志であり、ライバルであるこの環境は、私にとって本当に素晴らしいものでした。

在学生の皆さんへ

皆さんにはそれぞれまだまだやるべきことがあると思います。教師として教壇に立つ人は教師になった時のための勉強をしなければならないだろうし、教員採用選考試験を受ける人は、それに向けての勉強をしなければならないでしょう。いずれの勉強をするにしても、一緒に頑張ることができる仲間を見つけてください。自分にはない考え方をくれるだろうし、何より頑張ろうという力になります。

今、皆さんが座っている周りの人たちは教職を志している人たちです。残りの大学生活は短いですが、同じ目標を持つ者同士で協力し合い、それぞれ自分の目指す教員像に近づけるよう、頑張ってください。